

国際協力／開発協力の目的

ア 開発途上国との対等なパートナーシップに基づき、開発途上国の開発課題や人類共通の地球規模課題の解決に共に対処し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の下、平和で安定し、繁栄した国際社会の形成に一層積極的に貢献すること。

イ 同時に、我が国及び世界にとって望ましい国際環境を創出し、信頼に基づく対外関係の維持・強化を図りつつ、我が国と国民の平和と安全を確保し、経済成長を通じて更なる繁栄を実現するといった我が国の国益の実現に貢献すること。

開発協力大綱（2023年6月9日閣議決定）2.(4)抜粋

開発途上国が抱える課題



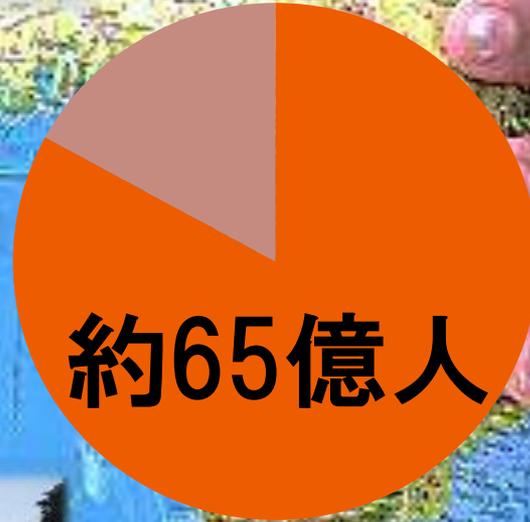
インフラ不足



貧困



難民



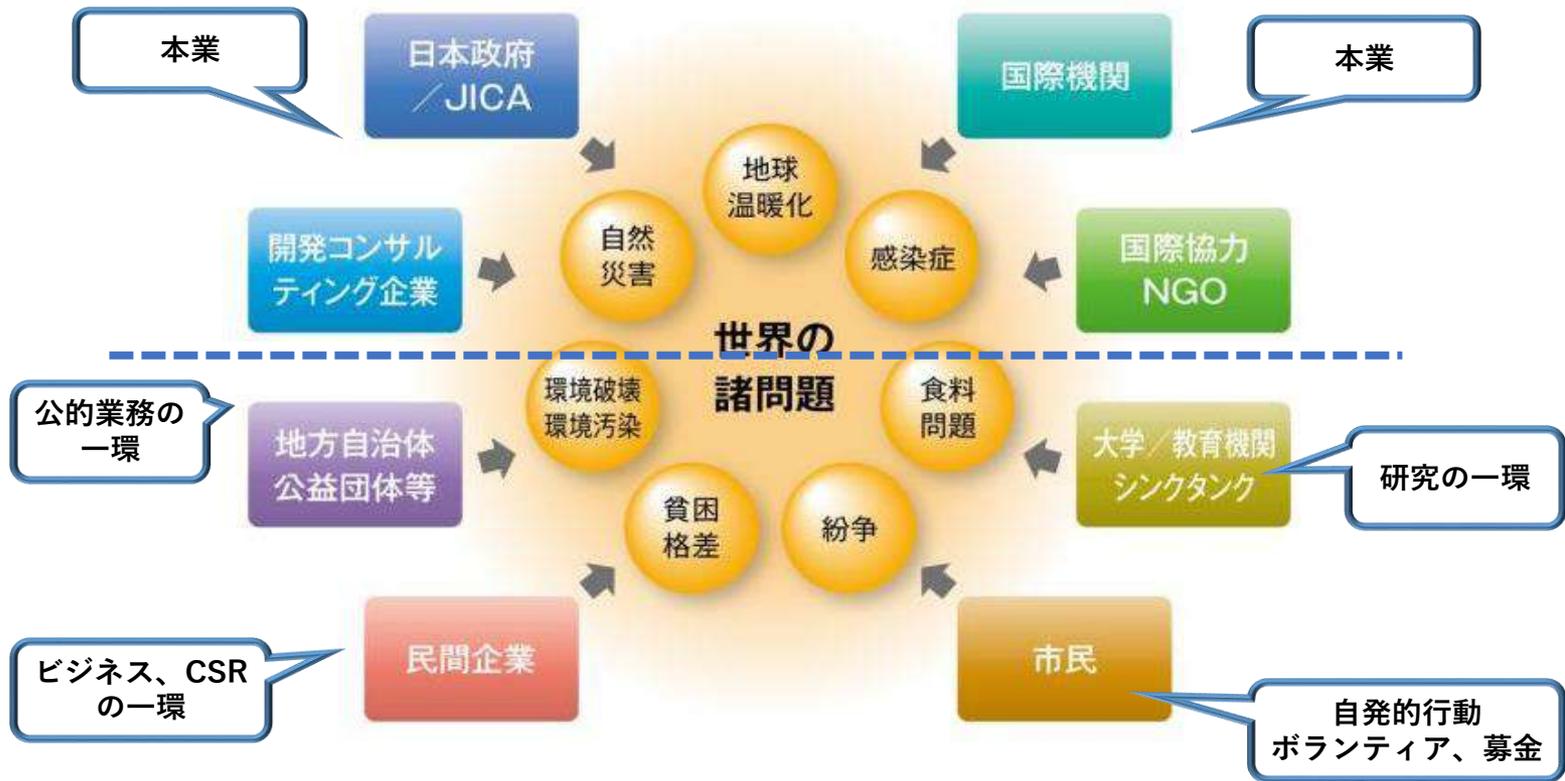
気候変動

保健医療

教育

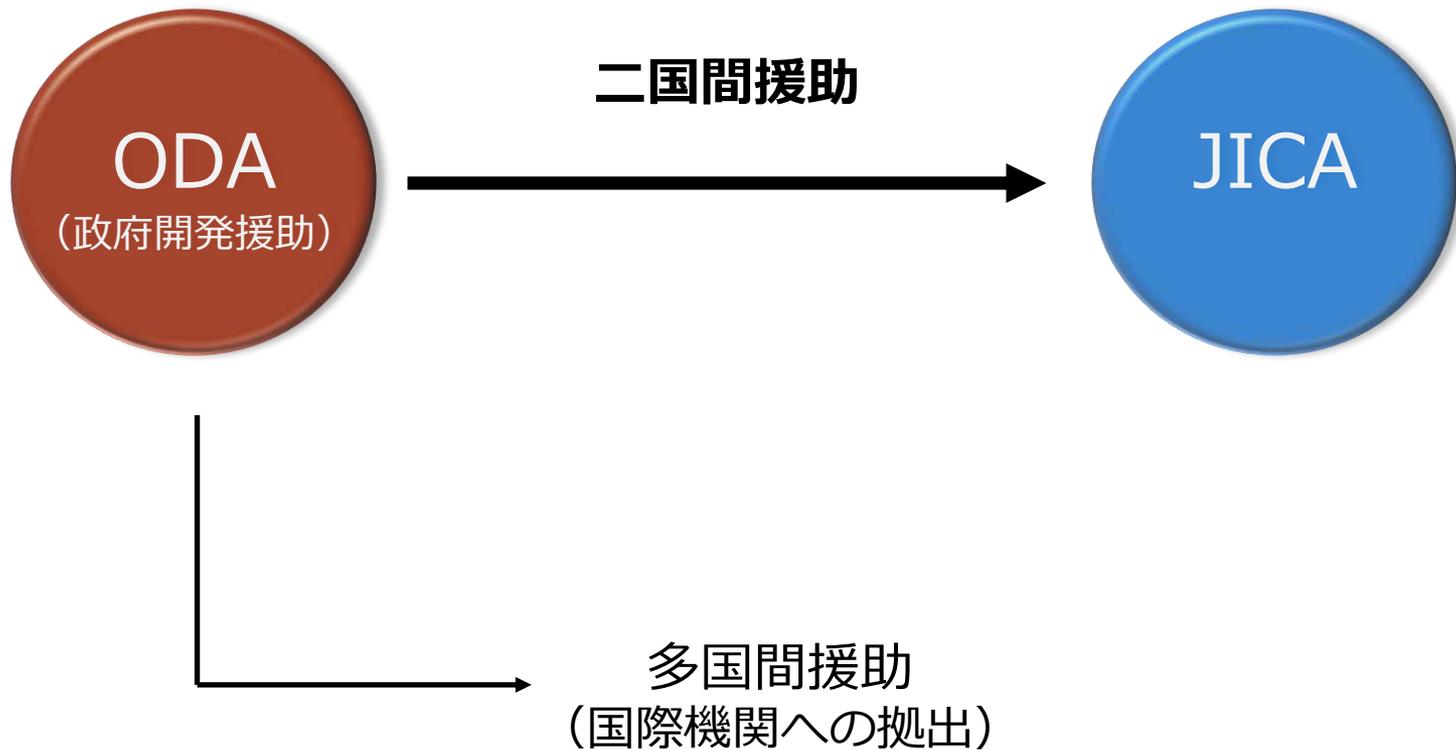


国際協力を担う様々なアクター





日本のODAの一元的な実施機関





JICAの概要

名 称：独立行政法人国際協力機構（JICA）

設立年月日：2003年10月1日

目 的：開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資すること。

職 員 数：1,968人（2023年1月1日時点）

資 本 金：8兆4,156億円（2024年6月末時点）

拠 点：「国内」本部（東京3拠点）
国内機関（15拠点）
「海外」在外拠点（96拠点）

JICAの目的

(機構の目的)

第3条 独立行政法人国際協力機構は、開発途上にある海外の地域(以下「開発途上地域」)に対する技術協力の実施、有償及び無償の資金供与による協力の実施並びに開発途上地域の住民を対象とする国民等の協力活動の促進に必要な業務を行い、中南米地域等への移住者の定着に必要な業務を行い、並びに開発途上地域等における大規模な災害に対する緊急援助の実施に必要な業務を行い、もってこれらの地域の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的とする。

独立行政法人国際協力機構法（2002年12月6日）第3条抜粋



ODA(政府開発援助)によって
開発途上国の「国づくり」
を行う実施機関

JICAのビジョン・ミッションとSDGs

ビジョン：信頼で世界をつなぐ

- Leading the world with trust-

ミッション：JICAは、開発協力大綱の下、人間の安全保障と質の高い成長を実現します。



質の高い成長：「**包摂的**」、
「**持続可能性**」、**「強靱性**」を備える

人間の安全保障：
「**人々を中心に据えた協力**」、
「**社会的弱者への裨益**」

高い親和性

SDGsの理念：

- 「**誰一人取り残さない**」包摂的な社会（子ども、高齢者、女性、障害者、難民・避難民等、多様な人々の開発への参加や裨益）
- **持続可能でレジリエント（強靱）な世界へ**（前文）。農業、都市、インフラなどで強靱性を重視。





地域別でみた事業規模

- 年間2兆円超の事業規模
- 150の国・地域へ協力

中東・欧州
22ヶ国
3,867億円

東・中央アジア
9ヶ国
446億円

東南アジア
大洋州
22ヶ国
8,964億円

南アジア
8ヶ国
9,873億円

アフリカ
48ヶ国
1,825億円

中南米
30ヶ国
1,785億円

協力メニュー

技術協力



ヒト（専門家、研修員等）を通じた協力
技術やノウハウの伝授（稲作普及、教員養成）など

日本のリソースを
総動員して
“伝える”

有償資金協力



（返済義務のある）**カネ**（大規模な
経済インフラ整備）を通じた協力

港湾、橋、鉄道、地下鉄、発電所、上下水道設備 など

成長の土台となる
インフラ整備等の
費用を“貸す”

無償資金協力



（返済義務のない）**カネ**（基礎インフラ
の整備と機材の供与）を通じた協力

学校、病院、井戸、道路、医療機材、教育機材 など

生活に不可欠な
施設の整備費用等
を“贈与する”



How

協力メニュー

民間連携

民間のリソース（技術・製品）を
活用した協力

海外投融資、中小企業支援、SDGsビジネス支援 など

民間企業との
共創による
課題解決

市民参加協力

日本の市民による協力

JICA海外協力隊、NGO等活動支援、開発教育支援 など

国際協力を
日本の文化に

国際緊急援助

緊急時の人道的協力

自然災害・人為的災害の発生現場への援助隊派遣や物資供与 など

日本の知見を
世界の被災地へ





オーダーメイドの協力

農業		環境
	都市 開発	
運輸 交通		平和 構築
	防災	
法整備		水資源
	保健	
教育		水産

課題

相手国側か
らの要請



JICAから
の提案

技術協力

有償資金協力

無償資金協力

メニュー

融資： 大型経済インフラの整備

第2バンコク国際空港建設事業（スワンナプーム空港）

→ハブ空港として、タイ及び東南アジアの経済発展を支える。





融資：大型経済インフラの整備

「インド・デリー高速輸送システム建設事業」

2002年開業（昨年、開業20周年）、インド首都を支える都市交通インフラ

→慢性的な交通渋滞、大気汚染の緩和

→工事進捗、工事現場の安全管理、運行ノウハウ・整列乗車、女性専用車両の導入など



民間連携事業： 共創による課題解決

【調査】 デジタル教材を開発・販売している企業の、スリランカでの事業展開（塾の開校等）を支援



低所得層でもアクセスできる安価な教育システムを通じて、教育の格差是正・質改善に貢献

【海外投融資】 自然エネルギー事業を展開する企業のモンゴルでの風力発電事業を支援



逼迫する電力需給への対応
⇒持続的な経済社会発展
自然エネルギーの促進
⇒気候変動の緩和



JICA職員のキャリアパス



- JICA本部を中心としたローテーションシステム
(部署異動は2年～4年に1回)
- 総合職 (官房・支援部門への配属も有り)
- 海外事務所への配属は必須

多様な人材育成制度

1. 海外研修

- 新人海外OJT
- 長期研修（語学、修士/博士課程） 毎年20名弱

2. 国内研修

- 専門性強化（経済、財務、課題別セミナーなど）
- 語学（英語、フランス語、スペイン語など）
- 学位取得（修士/博士課程の学費等補助）
- 自己研鑽（公的資格、語学など経費補助）

3. 他流試合（出向）

- 国際機関
（世界銀行、国連、アジア開発銀行、アフリカ開発銀行等）
- 民間企業（商社、コンサルティング企業、金融等）
- 中央省庁、地方自治体 他

多様なキャリアパス

Ex① 大学で学んだ建築・土木工学を更に発展



Ex② 新たにやりたいことに出会う



Ex③ 教育に関心を持ち、一生のスキルに





こんな人はJICAに向いてる？

✓ 社会課題に対する当事者意識

多様な価値観への共感

論理的思考力

対話力

変化・トラブルを楽しむ

前例にとらわれない

途上国への思い

未知なるものへの好奇心

粘り強い

